

理窓会兵庫通信

ホームページ

<http://risoukai.rikadai.jp/br/hyogo/index.html>

日付：令和 2年 3月 6日 第45号

発行：理窓会兵庫支部

支部長：宮宅 勇二

連絡先：079-423-6646

(FAX) 079-422-4793

(Eメール) yuji-arch@rondo.ocn.ne.jp

発行数：300部

【今号の内容】

1. 同窓生として理科大を応援しよう！
2. 令和2年度の理窓会兵庫支部懇親会のお知らせ
3. 牧 秀一氏を応援してください！
4. 会費お振込みのお願い



1. 同窓生として理科大を応援しよう！

第2回目の東京オリンピック開催の年、2020年に入って早くも3月。同窓の皆様、いかがお過ごしでしょうか。この原稿を書いている現時点では新型コロナウイルスの話題で持ち切りですが、いささかマスコミも過大報道なのでは？と、考えてしまいます。皆様のお手元にこの兵庫通信が届くころには、この新型肺炎も下火になっていることを祈ります。

さて、現在の東京理科大学の様子をご紹介したい、と思います。東京理科大学校友会会報「理窓」が定期的に刊行されていますが、今年の1月号の学長と理事長の「新年のご挨拶」から抜粋して紹介させていただきます。

【松本 洋一郎学長の新年のご挨拶】

本学は創立以来、理学の普及を建学の精神として、自然と人間の調和的かつ持続的な繁栄への貢献を目指す教育・研究を行って参りました。これは2015年に国連が採択した「持続可能な開発目標：SDGs」にも通ずるものです。実力主義の伝統を堅持し、「社会の公器」として、透明性を高め、説明責任を果たすとともに、真の産官学連携を行い、それらを着実に執行して行くことが必要です。

一方、大学は、自律した個人の集団です。各構成員が自由闊達に活動できる場を構築し、自律分散的に生まれてくる研究教育成果を協調させ、社会的価値とするべく、本学が持つ多様性を活かそうと、様々な仕組みを構築して参りました。

今後の展開として、まずは「データサイエンス教育プログラム」の全学導入です。これは全ての学生がデータサイエンスに関する授業科目を履修することを可能にした学部横断型プログラムです。次に「全学的教養教育の推進」です。昨年度設立された「教養教育センター」を中心に展開し、大学院英語コース、科目ナンバリング制の導入を計画しています。最後に「リカレント教育」の推進です。今年度から、薬学研究科医療薬学従事者向け博士課程を開始、次年度からは工学部建築学科夜間コース開設などを予定しています。

研究面では、「データサイエンスセンター」の設立により、今後益々数理科学の研究とAIの開発研究の推進に寄与するでしょう。次に、「学外研究機関との連携強化」です。昨年度から今年度にかけて、東京大学・産業技術総合研究所・理化学研究所・自治医科大学・第一生命保険などと教育・研究に係る包括連携協定を締結し、共同研究を開始しています。加えて、教育力・研究力を強化し、本学の社会的価値を高める為に、「企業との大型共同研究の推進」、「国の大型予算事業の獲得」などの検討を進めています。

今後も、伝統ある「実力主義」の学風を継承し、教育・研究において国際競争力を持つ「世界の理科大」となるため、透明性の高い大学運営を行っていきます。

【本山 和夫理事長の新年のご挨拶】

前回の東京オリンピックの時は、日本経済が急ピッチで拡大していた頃で、4年後の1968年には、国民総生産（GNP）が世界第2位を達成しました。

本学もオリンピックの4年前の1960年に薬学部を、その2年後に工学部を開設し、オリンピックを挟んだ10年間で、志願者数を1,800名から27,000名へと、約15倍にも増大させました。日本の成長と歩みを同じくして、単科大学から理工系総合大学へと大きく発展を遂げた時代でした。

それから半世紀が過ぎ、我が国を取り巻く状況は大きく変わってきました。急速な少子高齢化の進行により、社会には様々な問題が山積し、経済発展を支えた大学の研究力、企業の技術力も、海外諸国と比較し、相対的な低下が指摘されています。

このような状況を打開し、再び日本の発展を支えるため、またSDGsに代表される地球規模の課題解決のため、大学、特に理工系大学に対する社会からの期待が一層高まってきている、ということは疑う余地がありません。

我々は、時代の要請に応える人材を輩出し、未来を照らす研究成果を創出して行かねばなりません。それを実現するために、3年前に“TUS Vision 150”を策定し、今後15年の本学の方向性を示しました。

まず、大学改革の柱の一つである「イノベーションハブとしての大学」を実現する学部・学科再編計画の第一弾として、来年2021年に、経営学部に「国際デザイン経営学科」を開設し、長万部キャンパスで1年次教育を実施します。その後、理工学部に国際系コースを新設し同コースの1年次も合流することで、長万部キャンパスを本学の国際拠点に生まれ変わらせる計画です。一方、基礎工学部の先進工学部への改組と学科の増設、理工学部の創域理工学部への改組と各学科の名称変更へと続き、2025年の薬学部の葛飾キャンパスの移転まで、5年間にわたり再編を実施していきます。

そして、神楽坂キャンパスは都心立地を生かし、データサイエンス・AI分野の充実などサイエンスの拠点として、野田キャンパスは広大な立地を生かし、理工学部を中心としたリサーチの拠点として、葛飾キャンパスは工学部・先進工学部・薬学部の連携によりイノベーションの拠点として整備し、世界から研究者・学生の集う世界レベルの研究拠点を構築します。

このように、本学の持つ高度かつ多様な力を最大限に発揮でき、SDGsの達成やSociety 5.0の実現に大きく貢献できる学びと研究の場を作っていきます。

2. 令和2年度の理窓会兵庫支部懇親会のお知らせ

今年の兵庫県の懇親会は10月4日（日）の11時30分より、県庁の隣の兵庫県民会館7階鶴の間で開催する予定ですので、奮ってご参加ください。

今回の講演は、一昨年台風で中止となった懇親会の時に予定しておりました竹中 芳子さんに手話について、お話しいただこうと思っております。

予定日の2ヶ月前頃に再度案内をお送りいたします。

日 時 令和 2年10月 4日（日）
11時30分～15時（受付は11時より）

場 所 兵庫県民会館7階 鶴の間
神戸市中央区下山手通4-16-3
TEL 078-321-2131

会 費 6,000円

講 演 竹中 芳子氏「手話の勉強をしよう」



3. 牧 秀一氏を応援してください！

去年の懇親会で2回目の講演をしていただいた昭和48年・理学部数学科卒の牧 秀一氏が、ボランティア活動をしている団体NPO法人「よろず相談室」の活動から一線を退かれるそうです。

これまで25年間、阪神・淡路大震災の被災者に寄り添って、特に高齢で独りになられた方を中心に訪問して、話し相手になり、心のケアに努めてこられました。

この度、引退を機に被災高齢者や震災障害者の証言映像を撮影した19人分の文集出版を目指すそうです。しかし、初版1500部の印刷・製本をするのに、資金が足りないそうです。

同窓生の皆様の力をお借りしたいのです。詳細は以下の新聞記事をお読みください。

A2.2.6

神戸のNPO

震災障害者の現実伝える



阪神・淡路大震災の被災者支援を続けるNPO法人「よろず相談室」（神戸市東灘区）の理事長、牧秀一さん（69）が5日、被災者の証言記録集作りに必要な支援金を募ると発表した。震

被災高齢者含む19人聞き取り 証言集出版へ資金公募

災20年を機に、被災高齢者や震災障害者の証言映像を撮影。19人分の文集出版を目指す。牧さんは「被災の現実を伝えるため、協力を願いたい」と話す。

よろず相談室は牧さんが発足させた。復興住宅の戸別訪問や、東日本大震災などの被災地へ励ましの手紙を届ける活動を続けている。

証言映像は、牧さんが関わってきた被災高齢者と震災障害者、遺族の計22人を計約40時間にわたって撮影。がれきの下敷きになつて車いす生活を送る女性

や、兄弟2人を亡くし、母親に後遺症がある男性など、震災がどんな転機になったのかを映している。

有志で編集作業に取り組み、来年1月、掲載の承諾が得られた19人分を出版する計画。初版1500部の印刷・製本などの経費に225万円を見込み、うち120万円分をクラウドファンディングで募りたい考えだ。5千円以上の寄付者には完成した証言集を贈る。牧さんは「証言集をきっかけに、被災したときにどう生き抜くかを多くの人に考えてほしい」と意気込む。

クラウドファンディングへの参加はよろず相談室のホームページから。直接の寄付も受け付けている。牧さん ☎0800・53005・1950 （金 昷革）

被災者の証言集作りに向けて寄付を呼び掛ける牧秀一さん（5日午後、神戸市役所（撮影・中西幸人）

「阪神・淡路」証言記録、災害障害者を支援

「ほっとかれへん」一念で 24 年

神戸・よろず相談室 牧さん 来年引退



引退を表明した会見で、長年の被災者支援活動を振り返る牧秀一さん＝18日午後、神戸市役所（撮影・大山伸一郎）

阪神・淡路大震災の被災者を支援する NPO 法人「阪神淡路大震災よろず相談室」（神戸市東灘区）理事長の牧秀一さん（69）が18日、神戸市役所で会見し、来年1月に代表を退くことを表明した。震災直後の避難所と仮設、復興住宅を訪ね歩いて24年。「忘れないことで被災者は前を向ける」と信じ、被災者支援の一つの在り方を体現してきたが、加齢による体力の衰えなどから、若い世代に活動を引き継ぐことを決めた。（金 晃華）

牧さんは被災した独居高齢者らの訪問活動に取り組み、東日本大震災などの被災地も訪ねた。災害で後遺障害を負った災害障害者を社会から孤立させない仕組みづくりにも尽力。2017年には身体障害者手帳の申請書類の原因欄に「自然災害」の項目追加にこぎ着け、同年の神戸新聞社会賞を受けた。定制制高校教諭だった44

体力の限界、若いメンバーが継承



神戸市東灘区の六甲アイランドの仮設住宅で住民と写真に納まる牧秀一さん（手前右端）＝1996年（牧さん提供）

歳の時に震災が発生。自宅しんどかった。3人の被災者から1日で計7時間にわたって話を聞いた時は、間とともに NPO の前身「よろず相談室」を設立した。避難所に通い詰め、被災者が抱える不安や心の痛みと向き合った。避難所が解消し、団体はいったん解散したが、仮設住宅で被災者の孤独死や自殺が相次ぎ、訪問活動を再開した。「ばたつと行かなくなつて被災者のはしごを外すのは嫌だった」。24年にわたつた活動について、牧さんは会見でそう振り返った。被災者の話を聞くことの負担は大きく「ストレスで

「最後の一人まで」がよるずの精神。その心意気は率直にうれしい」と目を細める。残る1年間は、震災20年目から撮影した被災者22人の証言動画をまとめ、災害障害者の支援拡充に向けた国などへの要望活動に力を尽くす。牧さんは「24年間多くの人と仲間を支えられてきた。引退後も、経験をもとに自分なりの社会貢献をしていきたい」と力を込めた。（NEXTに会見の問一答）

4. 会費お振込みのお願い

毎年、兵庫県内の東京理科大学同窓生に懇親会（総会）の案内と、兵庫通信2回分を約300名の皆様に郵送でお送りしています。

その郵送費を捻出するために、1人1口1,000円（1～5口）として、会費をお願いしています。同封している振込用紙は、その会費のお振込みのためのものです。皆様、ご理解の上ぜひご協力くださいますようお願い申し上げます。